

日本保育者養成教育学会 第3回研究大会

実行委員会企画のご案内

平成30年12月12日(水)

日本保育者養成教育学会

第3回研究大会 実行委員会

◇概要

保育者養成教育における新規的・独創的な取り組みの実践例(PBL、AL等)について、まずは口頭発表形式で、続いてポスターセッション形式でもプレゼンテーションを行い、参加者が任意の発表に自由に参加・討議できるようにします。

具体的には、“オープンスペース・テクノロジー(OST)”によって発足した学生プロジェクト(PBL)による東北福祉大学保育者養成課程のアクティブ・ラーニング(AL)の数々と、学びの一端をご紹介します。

なお、この企画においては、基本的に保育者養成教育の当事者である学生により発表・運営等を行うこととします。

☆“オープンスペース・テクノロジー(OST)”によって発足したPBLとは？

“オープンスペース・テクノロジー(以下、略して《OST》と言います)”とは、重要な課題等について関係者を一堂に集めて、参加者が解決したい課題や議論したい課題を自ら提案し、自主的にスケジュールを決めて話し合いを行う会議の手法です。参加者の当事者意識と自己組織化能力を最大限に引き出すことにより、参加が納得できる合意に到達できるようにするところに最大の特徴があるとされています。

東北福祉大学保育者養成課程では、3年生の保育所実習終了後の10月頃から《ワールド・カフェ》や《AI; アプリシエイシブ・インクワイヤリー》等の大規模型対話技法を用いて対話や発議を重ね、後期実習指導がすべて終わりになる頃に、すなわちいよいよ最終学年の4年生になる目前の時期に《OST》を行います。

《OST》では、3年生全員が教室の中でサークル状になり、その中心で担当教員から「今まで約3年の間、保育のいろんな学びをやってきたけれど、この後残された時間で、どのように自分たちで自分たちのためになるどんな保育の学びをしたいか？みんなで考えてみてくれ！」と、問いかけられます。突然の切り出しに最初は戸惑いますが、徐々に触発されたメンバーがそれぞれ自発的にアジェンダを出し合い、自主的に集まり始め、企画に賛同したメンバーがアクションチームとしてのプロジェクトを結成し、“勝手連”的に〈やりたいメンバーが自分たちで課題に取り組む保育の学びチーム〉としていろいろな活動や学びに取り組み始めます。

これにより、テーマも、内容も、参加自体も、学生の自由意思で行う学生主体型のPBL(Project-Based Learning)が創出されます。

★Teaching Others について

主体的かつ能動的に学習に取り組み、組織での活動や自らの実践が必要となるような学習プログラム、つまり自ら問題を発見し解決する能力を養うこと等を目的として組織的に行う教育法がPBLですが、東北福祉大学保育者養成課程においては、近頃、各種の学生プロジェクトにより、学生が学生に対してレクチャーやワーク等の授業を行うという授業スタイル、いわば「Teaching Others」を実践しています。

「Teaching Others」スタイルで授業を行うということは、他者に教えるということになるため、より正確な理解や知識が求められ、学生は通常の授業の学習より何倍も勉強する必要があります。たとえば、教科書等は到底一冊だけで済むはずもなく、何十冊も読み込まなくてはなりませんし、現場へ出向いて調査やインタビュー等も行うことにもなります。また、これは、一人だけの作業や準備ではとても成しがたいため、自ずと対話力や同僚性・協働性も求められることとなります。

東北福祉大学保育者養成課程では、こうした手間のかかる「Teaching Others」をやり遂げられたとしても、単位にもならず評価も点けられません。つまり、大学や他者から何かをいただけるという見返りのようなものは一切なく、あるのは自己実現のみです。

これらの取り組みにおいて、なにより必要なのは、“自分たちで”という主体性や、“自分たちから”という能動性です。

◇実行委員会企画の流れ

○口頭発表 13:00～15:00 於；61教室（6F）
進 行・・・東北福祉大学教育学部教育学科3年生
発表Ⅰ・・・ミシュラン・プロジェクト
発表Ⅱ・・・発達プロジェクト
発表Ⅲ・・・環境プロジェクト
発表Ⅳ・・・出稼ぎプロジェクト ※1発表20分程度（質疑応答は別途）

○ポスターセッション 15:15～17:15 於；61教室（6F）
前 半 15:15～16:15
発表Ⅰ・・・ミシュラン・プロジェクト
発表Ⅱ・・・環境プロジェクト

後 半 16:15～17:15
発表Ⅲ・・・発達プロジェクト
発表Ⅳ・・・出稼ぎプロジェクト

発表プロジェクトについて

I ミシュラン・プロジェクト

保育現場に赴いて“ECERS-E”“ITERS-R”“SSTEW”などの評価指標を用いて〔保育の質評価〕を実践し、その過程で得られた学びを基に保育系学生向けに独自の【就活ガイドライン】を策定するなど数々の実績を残し、質の高い保育を希求し続けて、ここ数年、代々受け継がれて進化し続けているプロジェクトです。

今年度のメンバーは、保育実践方法のあるべき姿を具体的かつ詳細に文言化・明示化した【保育実践ガイドライン（乳児版）】を作成しています。

II 発達プロジェクト

4年生となり、保育者になる目の前の一年間で「子どもの発達をしっかりと勉強し直し、保育者のスタートに備えたい。そして、その成果を同僚や後輩にも還元したい」と望んだメンバーが集まり、乳幼児における発達の順序性等に関する基本を一から学び直して集積し、学生が使いやすいコンテンツとして作成・配信しているプロジェクトです。

今年度から毎回の実習指導において、このプロジェクトの学生により「Teaching Others」スタイルで『子どもの発達』に関するレクチャー及び小テストを実施するなど、学生同士の学び合いを主導しています。

III 環境プロジェクト

「環境を通して行う」保育の実践事例や、ドキュメンテーションを学生自らが集積し、成果を他の学生にも還元することで『保育における環境』への理解を深める学び合いの技法を保育者養成課程の段階で習得し、保育者として着任後も園内研修等でその技法を適用できるようになることを目指して発足したプロジェクトです。

発達プロジェクトと同様に毎回の実習指導において、このプロジェクトの学生により「Teaching Others」スタイルで『保育における環境』に関するレクチャー及びワークを実施するなど、学生同士の学び合いを主導しています。

IV 出稼ぎプロジェクト

東北から首都圏の保育現場に保育補助のアルバイトとして最低数日間は滞在し、旅費をも負担してもらって、まさに保育の“出稼ぎ”を行います。実習とは本質的な意味は異なるものの、結果的には地方の学生としての就活費用、就職先との出会いや見極め、そして実践からの学びなど、成果は多岐にわたります。

メンバーは、首都圏の保育事業者や仲介業者と学生のつなぎ役を果たしながら、自らもたくさん“出稼ぎ”に赴き、保育の学びと就活とを併行しながら活動を展開しています。

※以上は、東北福祉大学保育者養成課程のプロジェクトの一例です。

以 上